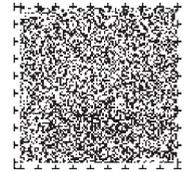


「脳卒中リハビリテーション看護」認定看護師 教育機関として認定される



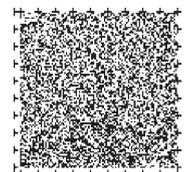
当センター学院に「脳卒中リハビリテーション看護」分野の認定看護師教育課程が認められ、平成23年10月から教育を開始します。

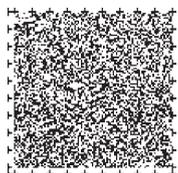
なぜ脳卒中なのか、その背景には日本は世界に類をみないほど急速に高齢社会を迎え65歳以上の方が5人に1人といわれる現実があります。現在、介護が必要な方は450万人とも言われその原因疾患のひとつに脳卒中があります。脳卒中は、発生状況を示すことばで表現されているように、急に（卒＝突然に）意識障害を伴って発症し、麻痺を伴うことが多く、その後の生活に大きく影響する病気です。1950年頃からは日本人の死因別の第一位で、国の政策として生活・食事内容の改善にむけて保健指導が行われ、1980年頃からは死因別では第三位となりましたが、現在でも年間約40万人が発症するといわれています。医療が進歩し、脳卒中医療は超急性期から積極的な治療と早期離床が有効であるというエビデンスが示されています。しかし、発症後に早期離床が進められずにリハビリ病院に廃用症候群の状態入院される方がいる事も事実です。その状態は本人の苦痛の増強、訓練期間の延長、合併症の併発、機能障害の重度化、生活機能の低下による要介護状態の増加、家族の負担増、医療費の増加に繋がっていきます。

日本看護協会は、少子高齢化、医療の高度化・専門化の中で、複雑な問題を抱える患者や家族に対応できる柔軟で質の高いケアの提供が出来る看護師が必要であるとして、特定の分野を限定して1994年「専門看護師」、1996年「認定看護師」を承認してきました。日本の高齢人口増加の中で、脳卒中は超急性期、急性期、回復期、維持期を通して患者の尊厳と疾病・障害の改善の可能性に目を向け、可能な限りADLの自立とQOLの向上を図る専門性の高い分野であり、専門知識と技術を有する看護師の育成が求められるとしてリハビリテーション看護の普及に

尽力している2学会が協力して認定看護の分野を申請し、2009年2月に日本看護協会「脳卒中リハビリテーション看護」が認定されました。

当センターは、国の機関として医療・福祉・研究・教育に関与する役割を担っています。医療・福祉に関係する多様な専門職があり、教育機関である学院を有していることは他に例のない施設です。今後も増加が予想される脳卒中患者に深い知識と技術をもって対応できる認定看護師教育に関わることは、センターの目的である人材育成に繋がるものとして取り組みを進め、静岡・愛知看護協会へ見学に出かけ励ましを受けました。「何故、国リハですか」とは本省から常に問われた質問でした。学院とともに確認はあってきましたが、新規事業を要求する時のハードルの高さを実感いたしました。幸いに当センター総長はじめ幹部の理解が得られたことは大きな一歩になりました。最大の課題である主任教員、専任教員の確保では、当センターに勤務経験があるつくば国際大学教授の長島先生とつくば国際大学のご協力が得られました。専任教員候補は急性期病院に長期研修に出て条件を満たす方法を選択しました。長期研修の実現は当センターにとって初めての事であり管理部のご理解に感謝するのみです。外部の実習施設、講師をお願いした皆様方からは「国の役割でしょう」「できるだけ協力をさせていただきます」との積極的な協力を得られました。センター内部の専門職の皆様にも講師をお願いしております。このような準備を経て書類を整え平成22年8月末に日本看護協会に申請し付帯条項付きでしたが10月末に認定を受け、その後に付帯条項もクリアすることができました。厚生労働省の予算は3月の大震災の影響もあり遅れましたが、平成23年3月末に国会を通過し平成23年10月教育開始にむけて4月から研修生募集の準備をしています。



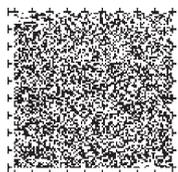


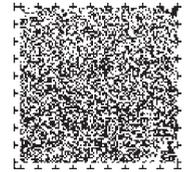
人はだれもが1年ごとに年を重ね全身的な機能低下の途中にいます。その中で健やかに生活を楽しむ人生でありたいと思うのは万人共通でしょう。人生の過程で望まない状況が発生してもその人らしく生活できるように知識・技術を有した専門職によって治療・看護を受けたいとの願いも万人共通でしょう。この教育課程は国の施設として国民の健康を守る大きな使命に貢献することであり、育てていく価値の高いものであると信じています。

(前脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
教育課程設立準備委員会委員長 横田美恵子)



認定看護師 教員室





言語聴覚士、義肢装具士国家試験及び 手話通訳士試験の結果について

学院事務室

第13回言語聴覚士国家試験は去る2月19日（土）に、第24回義肢装具士国家試験は3月4日（金）に実施されました。合格発表は両試験とも3月28日（月）に行われ、当センター言語聴覚学科の平成22年度卒業生は28名全員が、義肢装具学科についても卒業生8名全員が合格しました。

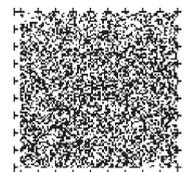
また、第22回手話通訳士試験は、昨年10月2日

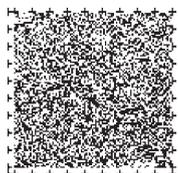
（土）、3日（日）の2日間で実施されました。最終合格の発表は1月31日（月）に行われ、当センターの卒業生は現役が2名、既卒者が11名、合計13名が合格しました。

合格された皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

国 家 試 験	学 科	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
言語聴覚士国家試験	言語聴覚学科	28	28	100.0
	全 国	2,374	1,645	69.3
義肢装具士国家試験	義肢装具学科	8	8	100.0
	全 国	199	176	88.4
手話通訳士試験	手話通訳学科 (注)	8 (-)	2 (11)	25.0 (-)
	全 国	863	184	21.3

(注) () 書は、既卒者の別掲である。

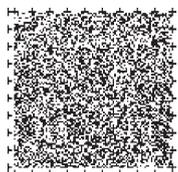


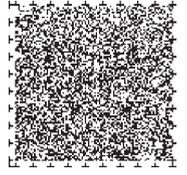


【お知らせ】

平成23年度主要行事予定一覧

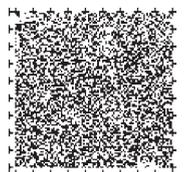
月	主要行事	関連事項
4	入学式（学院：7日） 入所式（理療教育：20日） 利用開始（自立訓練・就労移行支援） 新規採用職員等研修会（中旬） 自立支援局避難訓練	養成利用者2年生以上授業開始（21日） 養成利用者1年生授業開始（27日）
5	利用開始（自立訓練・就労移行支援） 動物実験委員会（中旬） 国立塩原視力センターとの交流会（下旬） 自立支援局避難訓練	臨床研修コース利用者授業開始（9日） 再理療教育クラス利用者授業開始（9日）
6	利用開始（自立訓練・就労移行支援） 体育祭（3日予定） 総合防災訓練（14日予定） 遺伝子組換え実験安全委員会（下旬）	
7	創立記念日（1日） 利用開始（自立訓練・就労移行支援） 利用者避難訓練 就労移行支援野外訓練 自立訓練野外訓練	養成専門課程利用者夏季休暇（23日～8月21日） 理療科教官特別研修会（福岡市：26～28日）
8	利用開始（自立訓練・就労移行支援）	理療科教官研修会（上旬、下旬） 養成高等課程利用者夏季休暇（6日～21日） 養成利用者授業開始（22日）
9	利用開始（自立訓練・就労移行支援） 自立支援局避難訓練	
10	理療教育課程卒後研修会（上旬） 国際福祉機器展出展（東京ビックサイト：5～7日） 利用開始（自立訓練・就労移行支援） リハ並木祭（22日予定） 合同総合防災訓練（31日予定）	第11回全国障害者スポーツ大会（山口県：22～24日）
11	利用開始（自立訓練・就労移行支援） 第1回研究所評価委員会 自立支援局避難訓練	身体障害者リハビリテーション研究集会（茨城県：17～18日）
12	利用開始（自立訓練・就労移行支援） 障害者週間記念式典、研究所オープンハウス（9日予定） 自立支援局避難訓練 第28回業績発表会（22日予定）	障害者週間（3～9日） 所沢市障害者週間記念事業（1日～7日予定） 養成利用者冬期休暇（17日～1月9日）
1	利用開始（自立訓練・就労移行支援） 自立支援局避難訓練 学院入学試験（下旬～2月中旬）	養成利用者授業開始（10日）
2	流動研究員採用試験（上旬） 第2回研究所評価委員会 利用開始（自立訓練・就労移行支援） 自立支援局避難訓練	再理療教育利用者授業終了（24日） あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師国家試験（25・26日）
3	運営委員会（上旬） 卒業式（理療教育：8日） 卒業式（学院：6日） 自立支援局避難訓練 利用開始（自立訓練・就労移行支援） 理療教育課程卒後特別研修会（中旬） 国リハ・職リハ合同幹部会議（下旬）	臨床研修コース利用者授業終了（9日） 養成利用者春季休暇 受験学年（9日～） 在学年（10日～）

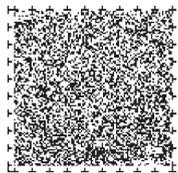




幹部職員人事異動

新 職 名	氏 名	前 職 名
総長 (事取) 自立支援局長 (併解) 病院	江 藤 文 夫	自立支援局長 (併) 病院
管理部長 社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室長 (事免) 自立支援局総合相談支援部支援企画課長	小 河 芳 弘	社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室長
自立支援局総合相談支援部長 (事取) 自立支援局総合相談支援部支援企画課長	黒 沢 正 俊	自立支援局総合相談支援部長 (事取) 自立支援局総合相談支援部支援企画課長
自立支援局自立訓練部長 (事取) 自立支援局自立訓練部生活訓練課長 (事免) 自立支援局伊東重度障害者センター医務課長	角 田 宗 広	自立支援局函館視力障害センター所長
自立支援局函館視力障害センター所長 (併解) 研究所企画官	河 原 勝 洋	自立支援局伊東重度障害者センター所長 (事取) 自立支援局伊東重度障害者センター医務課長
自立支援局伊東重度障害者センター所長 (事取) 自立支援局伊東重度障害者センター医務課長 (事免) 自立支援局自立訓練部生活訓練課長	後 藤 英 信	自立支援局総合相談支援部総合相談課長 (併) 研究所企画官
病院第一診療部長 (併) 研究所感覚機能系障害研究部長 (併解) 病院第一診療部	西 村 茂	自立支援局自立訓練部長 (事取) 自立支援局自立訓練部生活訓練課長
病院健康増進センター長 (併) 病院第一診療部 (併解) 病院健康増進センター長	中 島 八 十 一	研究所感覚機能系障害研究部長 (併) 学院長 (併) 病院第一診療部 (併) 研究所脳機能系障害研究部長
病院看護部長	飛 松 好 子	病院第一診療部長 (併) 病院健康増進センター長 (併) 病院リハビリテーション部 (併) 研究所義肢装具技術研究部長
	田 村 玉 美	病院看護部副看護部長





〔お知らせ〕

平成23年度入学のご案内 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師教育課程

今、私たち看護師には、熟練した看護技術と知識をそなえた水準の高い看護実践が求められています。

「脳卒中リハビリテーション看護」分野で、他の看護師への指導・相談を行い、自らの実践力を自律的に向上することができる認定看護師を目指してみませんか。



目的 「脳卒中リハビリテーション看護」認定看護師の育成

募集人員 20名

開講期間 平成23年10月～平成24年3月（6ヶ月間）

応募資格 日本国の保健師、助産師及び看護師のいずれかの資格取得後、実務経験が通算5年以上であること。そのうち通算3年以上は脳血管障害の多い部署での看護実績を有すること。

願書受付 平成23年5月2日（月）～平成23年5月31日（火）※当日消印有効

入学試験 平成23年6月30日（木）
平成23年7月1日（金）
〔試験科目〕 専門基礎科目及び専門科目、小論文、面接

合格発表 平成23年7月13日（水）

入学検定料 31,000円

修了後の資格 日本看護協会が実施する認定看護師認定審査受験資格

授業料 600,000円
その他、教科書・臨地実習費等は自己負担

出願書類（募集要項を含む）の請求方法

返信用封筒（A4規格24cm×33cm程度）に200円切手を貼り、郵便番号、住所、氏名、教育課程名および出願書類請求と記載し、別封筒に入れて下記まで郵送して下さい。

出願書類請求・問い合わせ先



〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地
国立障害者リハビリテーションセンター学院
電話 04(2995)3100（内線）2618

